

科研費

申請書の
赤ペン添削
ハンドブック

第2版

CONTENTS

第2版のはじめに
初版のはじめに
本書の構成・利用法

1章 総論

▶ 申請書全体から受ける「わかりにくい」印象を改善するにはどうしたらよいか。
まずはそこから解説する。

case01	これで完成！？文章が下手で申請書の内容が頭に入っていない	013
case02	図がわかりにくい	017
case03	箇条書きが多すぎてわかりにくい	021
case04	概要と本文で研究項目の数が揃っていない	027
case05	美しくない申請書は読むのが苦痛 (1)	031
case06	美しくない申請書は読むのが苦痛 (2)	035
case07	一文が長くて読みにくい	039
case08	具体的に何を指しているかがわからない	043
case09	指示代名詞が何を指しているのかわかりにくい	047
case10	強調したい部分が目立たない	051
case11	簡潔に書かれすぎて内容がわかりにくい	055
case12	研究のキーワードが埋もれて重要度が伝わっていない (1)	059

2章 研究目的、研究方法など：概要

▶ 2～6章では、申請書のコアとなる「1 研究目的、研究方法など」欄のブラッシュアップのポイントを解説する。2章の「概要」は審査委員が最初に読む大事な部分なのに、必要なことがきちんと書けていない人が多いので特に気をつけてほしい。

case13	必要な内容が十分に書かれておらずわかりにくい (1)	061
--------	----------------------------	-----

case14	概要とはいえ中身に乏しく具体的でない	067
case15	「背景」の記述が十分でなく解決すべき課題（学術的「問い」）をつかみにくい	071
case16	「目的」と「背景」が分断されていてわかりにくい	075
case17	唐突なはじまりで読みにくい	079
case18	研究のキーワードが埋もれて重要度が伝わっていない (2)	083
case19	概要には必要ないもの (1)	087
case20	概要には必要ないもの (2)	091
case21	「目的」が埋もれていて見つけにくい	095
case22	科研費の目的としてふさわしいか (1)	099

3章 研究目的、研究方法など：背景

case23	「(1) 本研究の学術的背景」の解説が長すぎてわかりにくい	103
case24	「(1) 本研究の学術的背景～学術的「問い」」に一般的な情報がなくわかりにくい	107
case25	研究遂行能力が十分にアピールされていない	111
case26	「目的」「背景」が混在していてわかりにくい	115

4章 研究目的、研究方法など：本研究の目的

case27	「本研究の目的」がわかりにくい	121
case28	「検証する」「開発する」だけでは研究目的としては不十分	125
case29	科研費の目的としてふさわしいか (2)	129

5章 研究目的、研究方法など：独自性、創造性

case30	「(2) 本研究の目的および学術的独自性と創造性」がわかりにくい	133
case31	この研究ならではの特色がわかりにくい (1)	137
case32	表現が控えめすぎて実現できるのか不安	141
case33	「学術的独自性と創造性」としてふさわしいか	145

6章 研究目的、研究方法など：何をどのように

case34	研究項目が多すぎて何をしたいかが散漫に見える	149
case35	必要な内容が十分に書かれておらずわかりにくい (2)	153
case36	方法論は具体的なのにわかりにくい	157
case37	研究計画の内容が少なすぎる	161
case38	年度ごとの実験計画の詳細しか書かれていない	165
case39	研究項目ごとに計画の詳細しか書かれていない	169
case40	研究方法が具体的に何を指しているかがわからない (理系の例)	173
case41	研究方法が具体的に何を指しているかがわからない (文系の例)	177
case42	アンケート調査やプログラム作成の内容がないのでイメージできない	181
case43	データ分析の種類だけで内容がないのでイメージできない	189
case44	論文発表・学会発表・本の刊行は研究計画や方法としてふさわしいか	193
case45	たくさんの項目を文章だけで説明しようとしていてわかりにくい	197
case46	この研究ならではの特色がわかりにくい (2)	201
case47	研究項目ごとの「予想される結果と意義」がなく意図がつかみにくい	205
case48	締めめの言葉がなく完結した感じがしない	209
case49	前欄に戻らないと記号や略語の意味を確認できない	213
case50	計画通りに進まないときの対応を考えていない印象を受ける	217
case51	誰に相談するかがあいまい	221

7章 本研究の着想に至った経緯など

▶	「本研究の着想に至った経緯」や「国内外の研究動向」を示す欄のポイントを解説する 申請者ならではのオリジナリティをアピールして、研究の重要性や意義を示そう	
case52	「本研究の着想に至った経緯」にオリジナリティがない	225
case53	「本研究の着想に至った経緯」が平凡すぎる	229
case54	「準備状況」で独りよがりな表現が目につく	233
case55	「(2) 関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ」が具体的でない	237

8章 応募者の研究遂行能力及び研究環境

▶	以前の申請書のように論文や学会発表をあげるだけではダメ 研究の実現可能性を示すポイントを解説する	
case56	「(1) これまでの研究活動」に論文のリストしか載せていない	241
case57	「(1) これまでの研究活動」に載せた学会発表の情報が不十分	245
case58	「(1) これまでの研究活動」に申請書の研究テーマとの関連がない	249
case59	「(2) 研究環境」の書き方が主観的で、具体性が不十分 (1)	253
case60	「(2) 研究環境」の書き方が主観的で、具体性が不十分 (2)	257

9章 人権の保護及び法令等の遵守への対応

▶	加点はないが減点がある欄なので気をつけよう	
case61	「人権の保護及び法令等の遵守への対応」が中身に乏しく具体的でない	261

10章 その他

▶	加点はないが減点はある欄のポイントや、どの欄でも当てはまる注意事項を解説する 特に 後者に関するアドバイスは、審査委員のことをよく考えた申請書にするためのテクニック になりえる	
case62	「研究経費とその必要性」に必要性が書かれていない	265
case63	なぜ海外調査が必要なのがあいまい	269
case64	強調スタイルがいくつもありどこが重要かわからない	271
case65	図や画像が何を示しているのかわからない	273
case66	写真が不明瞭で意図がよくわからない	277
case67	図表の文字が小さくて読みにくい	279
case68	論文から流用された図は申請書ではわかりにくい	283
case69	回りくどい表現、なくてもよい表現がある	287
case70	主観的な表現、刺激する表現が目につく	291
case71	略語の種類が多すぎて把握できない	295
case72	なぜ最新あるいは流行の機器を使うのがあいまい	299
case73	時事問題への配慮が足りない	301

CONTENTS

case74	表記が異なっており同じものを指すか違うものを指すかがあいまい	303
case75	「関連性」「関係」をもつのは何かがあいまい	305
case76	「AとBを用いて、CとDを行う」はわかりにくい	307
case77	雑なレイアウトで整った感じがしない	311
case78	不適切な接続詞を使っている	315
補遺1	: 申請者のための「申請書を書く, 添削する」基本	318
補遺2	: 研究支援者の申請書チェックの心構え	322
付録1	: セルフチェックリスト	324
付録2	: 研究支援者のためのチェックリスト	328
付録3	: インデックス別アドバイス一覧	330
付録4	: 申請分野別関連 case 早引きリスト	338
付録5	: 実際の申請書の添削例	340
索引		342

申請者のギモン

1	ひらがなと漢字	016	15	見出しの工夫	204
2	フォント	024	16	図の情報の向き	216
3	長い語句	042	17	学会参加	220
4	外来語	054	18	わかりやすい図に その1	228
5	模式図か計画表か	066	19	わかりやすい図に その2	232
6	リバイス中, in press	120	20	わかりやすい図に その3	236
7	図の配置 その1	132	21	わかりやすい図に その4	248
8	図の配置 その2	136	22	雇うという記述	252
9	行間	156	23	強調 その1	256
10	(続) 行間	160	24	強調 その2	260
11	図の解像度	168	25	強調 その3	264
12	タイトル風	188	26	強調 その4	268
13	フォントの大きさ	192	27	スペースがないとき	286
14	(続) フォントの大きさ	196	28	字下げ	310